



# J P C A

## 日本包装コンサルタント協会

〒104 東京都中央区築地4-1-1(東劇ビル)

社団法人 日本包装技術協会内

TEL:03(3543)1189 FAX:03(3543)8970

# 会

# 報

No. 12

1994年(平成6年)8月

発行者 松本光次

編集者 石原昌具

### 1. 第9回定時総会を終えて

会長 松本光次

第9回定時総会をつつがなく終了できましたことは、ひとえに会員各位のご協力のお陰と厚く御礼申し上げます。

さて、打ち続く産業の構造不況を乗り越えるため、製造コストの低減を目指して生産を海外に移転する企業も増加し、それに伴う産業空洞化の懸念、あるいは、国際化を促進し、企業の活性化を図るための規制緩和と、対応を迫られる問題が多い中で、製造物責任法が6月22日参議院本会議で可決、7月1日官報で公布され、来年7月1日から施行、また、「環境に優しい企業行動指針」が環境庁で作成されるなど、従来より一層の消費者保護・環境配慮が企業に課せられるようになって参りました。

このときに当たり、「日本包装コンサルタント協会」は、「信頼できる 包装・物流の頭脳集団」として益々その活躍が期待される時期が来たと、決意を新たに会員各位の業務の開発を通じて業界の繁栄に寄与し、会の発展を図りたいと念願している次第であります。

このような前提において、会員の全員参加による会務の総合的活性化と業務拡充により、広く会員各位へのサービスの強化を推進したいと企画を進めています。そのため社団法人日本包装技術協会との連携を一層緊密に行い、関連諸団体との連携活動を強化することを目的として、佐々木常務理事にご指導頂くため当会顧問に就任して頂くこととなりました。

その第1段階として、本年9月に開催される「東京パック」にブースの提供を得ました。このブースでは、会の活動状況の説明パネルの展示を行い、包装・物流の相談に応じることで、会のPRとクライアントの獲得に努めるとともに、会員の増強も図りたいと存じております。

会員各位におかれましては、今後とも会の運営について一層のご尽力・ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 2. 第47回理事会審議事項とお願いの件

会の活性化を図るため、平成6年度事業の一環として計画してきた「セミナー開催」と「東京パック参加」の件について、それぞれの担当者間で素案がまとまりましたので、8月20日 13:30～17:00 まで、中央区立新富区民館で、第47回理事会を開催して審議いたしました。（出席者：松本会長、三浦副会長、高沢、斉藤、納富、田口、原、石原8名）

### ① セミナーの件

会場は早く予約しないと取れないので、11月25日学士会館 210号室を予約しました。

テーマは、PL法が成立し来年7月1日より施行されるので、

- a. PL法の内容とその対応について、
  - b. 品質保証を強化するISO9000と人材高度化と品質向上を目指すTQC、
  - c. 規制緩和の実情とその影響（PL法が必要とされる背景）、
- の3テーマと決めました。

前回の実績からもセミナー開催のPRは、なるべく早くから行ったほうがよいので、講師選定と講演依頼を早急に行い、前記3テーマに共通する話題を選定し、PR内容を整えて、セミナー案内書は遅くとも9月末までには完成して発送する予定です。

### ② 東京パックの件

'94東京パックが9月16日から9月20日まで、晴海の国際見本市会場で開催されます。会長の挨拶にもあった通り、当会もこの催しに積極的に参加し、会と会員のPRとクライアントの獲得に努める所存です。

当会に提供されたブースは、第2会場で、日本包装専士会、技術士包装物流会と共用ですが、共用方法は3者懇談で当会の意向通りに決定しましたので、PR用のパネルは、原稿を8月15日にJPIの越野事業部長に提出し作成を依頼しました。

このブースには、当会としての相談窓口を設け、簡単な技術相談に当たるとともにクライアントの受付も行う計画で、常時2名の相談員が待機していることが必要であり、本部の理事だけではカバーできないので、会員各位にご協力をお願いします。

相談員としてご協力頂ける方には、ネクタイピンスタイルの入場バッチ（会場へ無料で何回でも入れます）と薄謝（交通費+昼食代程度）を差し上げます。

また、19日13:00 から15:00 まで、今回の東京パックのテーマ、「スリム、シンプル、リサイクル」について、シンポジウムを行う計画をしています。（会場はBCホール2F）

包装のスリム、シンプル、リサイクルについて、容器包装の観点から、包材の観点から、物流の観点から、それぞれの講師が考えを述べ、それに対する、会場の聴衆からの質問・意見を求めて、いかにすれば省資源・省エネルギー・環境保全という目的を達成できるかを考えてみようという目論見です。

会員各位のご参加により、このシンポジウムが盛り上がることを期待しています。